

## 3つのキーワードで知る

おぎ  
**萩** たるう  
**太郎**

(1915～2009)

《歴史》  
1960年



- 1915年 愛知県に生まれる。
- 1934年 (19歳) 東京美術学校油画科予科に入学。南薫造くんそうに師事。
- 1935年 (20歳) 東京美術学校油画科本科に進級、南薫造教室へ編入。帝展で猪熊弦一郎の作品を見て感銘を受け、以後師事する。
- 1937年 (22歳) 第2回新制作派協会展で初入選。以後毎年出品、入選。
- 1941年 (26歳) 第6回新制作派協会展で新作家賞を受賞。
- 1947年 (32歳) 新制作協会会員となる。
- 1958年 (43歳) ピッツバーグ国際現代絵画彫刻展に招待出品。
- 1962年 (47歳) 第25回新制作協会展に出品した《歴史》が第13回選抜優秀美術展に選出され、文部省買い上げとなる。
- 1967年 (52歳) 和光大学人文学部芸術学科教授となる。
- 1979年 (64歳) 第3回長谷川仁記念賞を受賞。
- 1980年 (65歳) 第23回安井賞展の選考委員を務める(1987、1991、1995、1997年も)。
- 1988年 (73歳) 第3回小山敬三美術賞を受賞。
- 1990年 (75歳) 安井賞展組織委員会の評議員となる。日本芸術家連盟理事に就任する。
- 2002年 (87歳) 第8回中村彝つね賞を受賞。
- 2009年 (94歳) 9月死去。94歳。第73回新制作協会展に油彩画8点が特別出品される。
- 2012年 呉市立美術館で「南薫造と教え子たち—萩太郎・渡辺武夫・野見山暁治・新延輝雄—」展で油彩画10点が展示される。

参考文献 『米寿記念 萩太郎展』図録 岡崎市美術館 2003年

てしま もりのすけ  
親友・手島守之輔

萩には手島守之輔という親友がいました。東京美術学校の南の教室で出会い、すぐに意気投合します。しかし、手島は戦争に召集され、故郷の広島で原爆に遭い亡くなります。萩自身は病気のため兵役を免れましたが、この手島の死は、後の萩の制作活動に大きな影響を与え、死や人の命など、人間の内面を見つめた作品を次々と描くようになりました。特に繰り返し描いた《レクイエム》や《掠奪》には戦争や原爆など社会への怒りや悲しみを込め、人間が生きる意味を作品を通して問い続けました。

### 絵本

あまり知られていませんが、萩は子ども向けの絵本の挿絵を数多く手がけています。それには生計を立てるためという理由もありましたが、子どもたちに夢を与えたいという強い愛情が込められていました。また、萩は油彩画でも度々子どもを主題とした作品を描いており、今回展示している《母子像》でも子どもへの深い愛情が感じられます。

ねりま  
練馬アトリエ村

萩は東京美術学校を卒業した後、東京・練馬のアトリエ村で生活を始めました。アトリエ村には当時、親友・手島のほか美術学校の同級生で彫刻家の舟越保武などもおり、若い芸術家たちはそこで切磋琢磨しながら制作しました。萩はそこで、自身の制作だけでなく、後進の面倒もよく見ました。若い芸術家たちはそこへ作品を持ち込んで萩から指導を受けたり、中には居候をする者もいました。その中には中根寛なかね かん、篠原有司男しのはら うしおなどがいます。仕事が終わると皆で食事をするなど、多くの若手芸術家が萩の人柄にひかれ集まっていたそうです。